

Epistula

Oita Prefectural College of Arts And Culture Public Relations Magazine

特集

美術・音楽・国際総合・情報コミュニケーション
全4学科の年間活動報告

#058
2020.Spring



【表紙モデル】美術科 美術専攻2年 中村結花さん

1

福祉施設で
音楽科教員・学生に
よる弦楽四重奏を
披露しました

12月15日、大分県宇佐市安心院町の特別養
護老人ホーム「妻垣荘」において、音楽科川
瀬教授と管弦打コース学生が弦楽四重奏を
披露しました。
この演奏会は、教職科目を履修する学生
が介護実習をした同施設からの要望で実現
したもので、施設利用者とその家族、職員
の方々と、100名を超える聴衆の前でクリス
マスソングや荒城の月、土を向いて歩こうな
ど親しみ深い曲を演奏し、楽器説明や曲目紹
介などを交えながら弦楽器の音色を楽しん
でいただきました。
施設利用者の皆さんは慣れ親しんだ音楽
や楽しい演目を前に表情が明るくなり、手
拍子が出るなど、楽しいひとときを過ごせ
たのではないかと思います。
この催しに対し、深見憲一施設長から、
「音楽演奏を聴く
機会がなく、また
機会がありましたら、
ぜひ演奏をお
願いたします。
音楽の力で利用
者を元気に出来た
らいいですね。」
とお礼の言葉をい
ただきました。



2

大分医療センターに
絵画作品を
展示しました！

国立病院機構大分医療センターの依
頼を受けて美術科美術専攻1年29人
が制作した絵画作品を、2月4日に大
分医療センターの渡り廊下に展示しま
した。
この取り組みは専門教育科目「美術
の人と職業」の一環として、患者さん
の心の緩和ケアを目的に「植物・花・
動物」をモチーフに制作したもので
す。
学生は昨年12月よりグループに分
かれ、それぞれでレイアウトを協議し
ながら2カ月間に渡って作業を進めてき
ました。
展示作業中には患者さん達から「と
ても明るい雰囲気になった、がんばっ
て」など多くの方に声をかけをいた
だき、学生達は
この制作活動
や、センター
利用者との交
流を通じて、
芸術が果たす
社会への役割
を感じていま
した。



3

「名誉教授称号
授与式」を
執り行いました

12月18日、本学学長室にて「名誉教授
称号授与式」を執り行いました。
名誉教授の称号は、本学を退職し、
教育、研究、大学運営及び地域貢献にお
いて、特に功績のあった方に授与され
るもので、本学はこれまで、45名にこ
の称号を授与しています。
今回は、本年度10月に学長を退任さ
れた中山敦吉氏、昨年度3月に教授と
して退職された美術科 河上央氏、同科
原田裕明氏、音楽科 磯崎淳子氏、同科
佐藤淳介氏の5名に対し、名誉教授の
称号を授与しました。
清水学長代行は、授与された方々がこ
れまで本学の発展と教育研究に大きく
寄与されたことを讃え、名誉教授とし
て今後本学
への「指導・
ご支援を賜る
とともに、何
よりご健康に
留意してほし
いと挨拶しま
した。



EVENT CALENDAR

3 MAR.

- 17日(火) 第58回卒業演奏会
- 18日(水) 第36回修了演奏会
- 19日(木) 卒業・修了式

4 APR.

- 5日(日) 入学式
- 6日(月)~8日(水) 新入生オリエンテーション
- 9日(木) 前期授業開始

※各イベントは変更になる場合があります。



大分県立芸術文化短期大学の公式
Facebookでは、本学が主催するイ
ベント・展覧会等のお知らせをはじ
め、キャンパス内の様子や学生たち
が行うさまざまな活動について報告
しています。また、サークルやイベント、
研究室等でも Facebookを立ち上げ
ています。



大分県立
芸術文化短期大学



美術科
ビジュアル
デザインコース



美術科
グラフィックア
ート
コース



美術科
プロダク
ト
デザインコース



音楽科



国際総合学科



情報
コミュニケーション
学科



県内各地で多彩なアート活動

今年も作品展にワークショップ、講演会などさまざまな活動を積極的に大分県内各地で行いました。

「地域ふれあいアート講座」を今年も開催しました

本学美術科学生と児童が美術を通して交流を図る「地域ふれあいアート講座」を11月26日、日出町立豊岡小学校で開催しました。

学生らが提案した「6つの色で構成する巨大なダンボールの町を作る」をテーマに、9月末から準備を進めてきたイベントで、美術専攻1年生28名と、小学校1年生の児童ら50名が参加しました。

学生らが組み立てたダンボール素材の最後の仕上げとして、児童が大きな塔やアーチを色付けし、飾りつけました。普段見ることのない大きな塔や、ボールになみなみと入った絵の具などに児童は歓声をあげながら、学生と一緒に作品を完成させました。

完成後児童は互いに作った「ダンボールの町」を探索し合い、講座終了後には「とても楽しかった」「もっと遊びたい」と笑顔で答えました。



フリー・アカデミーが修了しました!

10月4日より毎週金曜日に開講していた「フリー・アカデミー」(学長プロジェクト)が、1月31日に修了し、受講生20人に対して修了証の授与を行いました。

受講生は大きな絵画作品や立体作品など、それぞれ興味のある分野やモチーフに挑戦し、中原准教授、永井准教授、前田非常勤講師の講評とアドバイスを元にそれぞれが展覧会への出品等为目标に仕上げていきました。

受講生からは「美術棟の作業スペースが広く、こういったアカデミックな場所で描けることがとてもよかった」と感想が寄せられました。



「第8回インテリア設計士の家具デザインコンペ」にて優秀賞を受賞しました

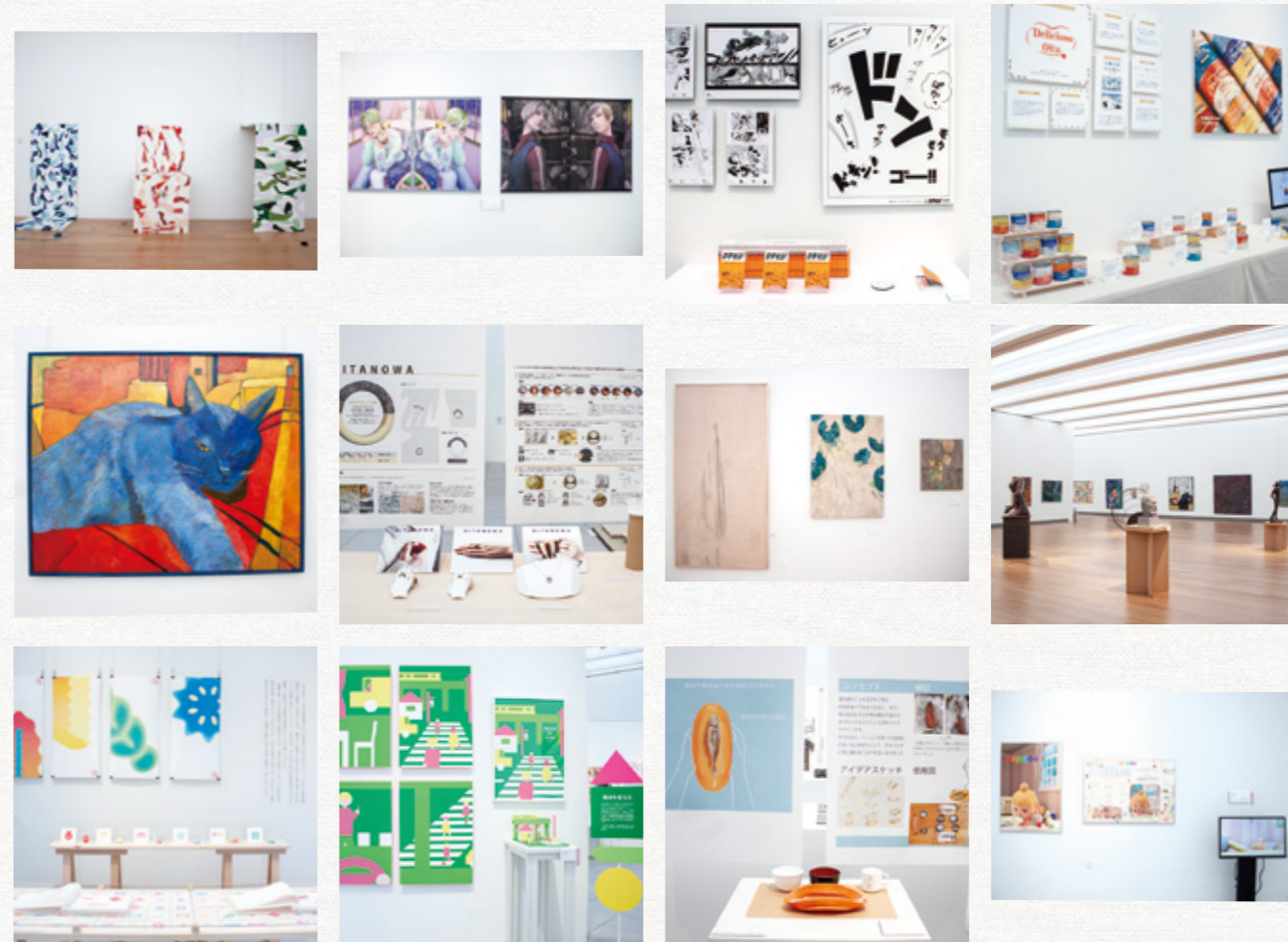
専攻科造形専攻プロダクトデザインコース1年生の佐藤亜紀さんが大分県インテリア設計士協会主催の「第8回インテリア設計士の家具デザインコンペ」優秀賞を受賞・同コース1年生の大石咲月さんが入選しました。

優秀賞を受賞した佐藤さんの作品はコイル状の椅子で、椅子を介した親子のつながりをカタチにしたものです。審査員からは、ユニークな椅子の形状とともに、実寸・実材で具現化する努力と情熱、プレゼンテーションの手法が評価されました。



OPAMで第58回美術科卒業・修了制作展

美術科・専攻科造形専攻の2年生100人の集大成「第58回美術科 卒業・修了制作展」を大分県立美術館(OPAM)で1月28日から2月2日の6日間にわたって開催しました。油彩画、日本画、ミクストメディア、彫刻、ビジュアルデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、グラフィックアート分野の力作が並びました。



Cover of Epistula vol.58

第58回 大分県立芸術文化短期大学 美術科卒業・修了制作展で華やかな色彩のミクストメディア作品を展示した、美術科美術専攻2年 中村結花さんが表紙を飾りました。



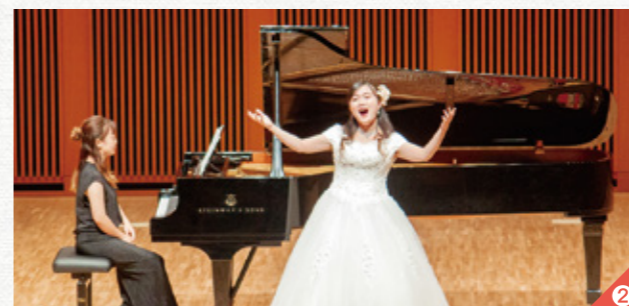
1回の舞台経験は

100回の練習に勝る!



音楽科ではこの言葉をモットーに、できるだけ多く本格的なステージに立って演奏する機会が学生たちとに与えられています。今年度もさまざまな演奏会を開催しました。その様子の一部をご紹介します。

音楽科では今年度、音楽科コンサートシリーズなど数多くの演奏会を開催しました。5月には音楽ホール完成披露コンサート(①)、9月は前期実技試験成績優秀者による「若さあふれるコンサート」(②)を開催。10月には学科総動員の「第55回定期演奏会」(③)、11月以降は各コースの特色あふれる「ピアノコース演奏会」(④)、「管弦打コース演奏会～師走に心温まるひとときを～」(⑤)、「声楽コース演奏会～声の饗宴～」(⑥)を開きました。また、年度末の3月17日、18日には1年間の集大成である「第58回 卒業演奏会」、専攻科音楽専攻「第36回修了演奏会」を開催します。



卒業・修了演奏会のお知らせ

日付
3月17日(火)・18日(水)

時間
17:30開演

場所
iichiko総合文化センター
iichiko音の泉ホール



「作曲作品展」を開催しました

11月2日、本学音楽ホールにおいて音楽総合コース学生と教員による「作曲作品展」を開催し、音楽総合コースで学ぶ学生、教員等の作品7曲が披露されました。



このコンサートは、今年5月に完成した音楽ホールを舞台として学生自らが創作した音楽を他のコース学生等と合同で発表する作品展です。

当日は学生によるサクソフォーン重奏やプロジェクターでの映像と合唱表現など、普段とは違う学生と教員の個性が光る曲の数々が披露され、来場者を楽しませました。

小学校で地域巡回演奏会を開催しました

本学音楽科教員・学生による「地域巡回演奏会」を玖珠町立北山田小学校と白杵市立野津小学校で開催しました。音楽科学生・教職員・演奏員



ら全校児童、教員、地域住民を前に、オペラハイライト、ピアノソロ・連弾、弦楽アンサンブル、金管アンサンブル、指揮者体験、合唱など、日ごろの成果を披露しました。

「パーカッショングループ ミレニアム 21st コンサート」を開催しました

12月14日(土)、「パーカッショングループ ミレニアム 21stコンサート」を本学音楽ホールにおいて開催しました。



第1部では1年生による一糸乱れぬ演奏技術や、第1回ミレニアムコンサートで演奏された曲目など4曲を披露。第2部には音楽総合コースの学生が作曲した曲目も加えた5曲を演奏し観客を魅了しました。

著名な音楽家や東京藝大名誉教授の公開レッスンを開催



世界的な音楽家である佐藤美枝子客員教授(声楽)、小林道夫客員教授(声楽・ピアノ)、東京藝術大学非常勤講師の三縄みどり特別講師(声楽)による公開レッスンを行いました。先生方の丁寧な指導に、受講した学生も一つ一つの発音や音楽表現を確認し、熱心に取り組みました。

「電子音響音楽演奏会 vol.2」を開催しました

1月17日、本学音楽ホールにおいて「電子音響音楽演奏会」を開催しました。



音楽情報機器演習を履修する学生が、音楽情報機器およびソフトウェア(MIDIキーボード、オーディオインターフェース、シーケンスソフトウェア等)を使用し、日常の音を素材にイメージを膨らませ、様々なアプローチを試みた作品を発表しました。

また、ピアニストの宮崎由紀子氏(本学元非常勤講師)と、電子音響音楽作曲家として活躍する大分在住の渡邊裕美氏を招き、松宮講師が作曲したピアノと電子音響のためのミクスト音楽作品を宮崎氏がハイブリッド・ピアノによって演奏する試みとともに、渡邊氏のアコースモニウム演奏によるフランスにおける新旧の電子音響音楽が披露され、電子音響音楽の歴史とこれからの可能性を体感する演奏会となりました。



Cover of Epistula vol.56

第55回定期演奏会で壮大な演奏を披露した管弦打コースの学生が表紙に。定期演奏会への意気込みや、曲目への思いを熱く語っていただきました。

さまざまな国際交流や

魅力ある講義を実施

国際総合
学科

国際総合学科では毎年様々な国際交流が図られています。
学科教員と外部講師を招いてのユニークな講義も多数実施しました。

国際総合学科では毎年様々な国際交流が図られています。国際総合学科の教員や外部講師を招いての国際性豊かでユニークな講義を多数実施しました。

国際交流の面では、3月に本学と交流協定を結んでいる中国武漢市・江漢大学からの中国人留学生6名が来日(①)。日本語の授業や各種専門の授業を受けながら、国際総合学科の学生と一緒に1年間の学生生活を送りました。6月には、韓国培材大学の学生が来学し、学生と交流しました(②)。10月には、中国武漢市「武漢歌舞劇院」のメンバーと音楽で国際交流を行い、国際総合学科の1年生は、武漢からの留学生とともに、交流イベントに参加(③)。11月には、「大分国際車いすマラソン大会第8回交流イベント～外国人選手とTALK SHOW～」を開催し、廣道純選手(大分県)やゲストの海外選手3名(南アフリカ1名、オーストラリア2名)との交流イベントを開催し(④)、今年の大会も多くの学生がボランティアとして、大会の成功に貢献しました。



講義の面では、4月から語学演習室の設備をリニューアルし、特に語学演習室1では、iPad(学生用60台)と授業支援システムを導入しました。対面コミュニケーションを重視しつつ、最先端のICTを活用する授業が可能となりました(⑤)。7月・1月には、「日本の伝統文化」や「文学」の授業でそれぞれ「茶道体験会」(⑥)と「百人一首大会」(⑦)を開催し、さらに後期開講の「キャリアデザイン」の授業では、社会や海外で活躍している卒業生・関係者をゲスト講師(⑧,⑨)として招き、様々な特別企画を行った他、進路内定をもらっている在学生との交流会(⑩)も実施しました。

学生にとって、さまざまな国際交流や魅力ある講義に参加できた1年間でした。



中国人留学生の送別会を開催しました

1月28日、本学の中国の提携校である武漢市・江漢大学からの中国人留学生6名の送別会を開催しました。

留学生たちは、昨年の3月に来日し、大分での1年間の勉学を無事に終えました。

送別会では、国際総合学科の関係教員のみならず、留学生生活の中で仲良くなった日本人学生も数多く参加しました。

また、1年間の留学修了を記念して、購谷学科長が留学生一人一人に修了証書を手渡しました。

修了証書を受け取った留学生たちは、流暢な日本語で感謝の言葉を述べ、大分での1年間をふりかえり、これからの抱負を語りました。



※新型コロナウイルス感染症発生のため、滞在期間を延長しています。

卒業研究発表会を開催しました!

1月28日、29日の両日、学内において国際総合学科 卒業研究発表会を開催しました。

2年生は2年間の集大成である卒業論文の概要をそれぞれのゼミごとに発表しました。

学生一人ひとりが積み上げてきた経験や知識が詰まった発表となり、学んだ外国語を取り入れた発表や、日本と海外の文化との違いを検証するなど、それぞれの分野を深く掘り下げた多彩な研究発表となりました。



令和2年度卒業研究ゼミ説明会を開催しました!

1月14日2時限目、人文棟視聴覚室にて、令和2年度卒業研究ゼミの説明会が行われました。この説明会は、国際総合学科1年生が2年次開講の卒業研究ゼミを決める上で非常に重要なものです。説明会では、国際総合学科の教員13名が、それぞれの卒業研究ゼミの研究内容や特徴などについて詳しく解説しました。

また、1月15日から1月22日までの1週間が「研究室訪問」の期間となり、研究室を訪問することによって、さらに各ゼミについての理解を深めていきます。



今年も、様々な国で海外語学実習を開催!

【夏季】

- ・イギリス語学実習
【8月10日(土)▶8月24日(土)】(5名)
セントラル・ランカシャー大学
- ・韓国語学実習
【8月8日(木)▶8月27日(火)】(27名)
釜山外国語大学

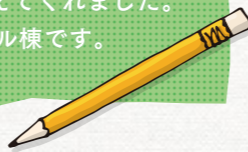
【春季(予定)】

- ・アメリカ語学実習
【2月12日(水)▶3月18日(水)】
(14名)
カリフォルニア大学ディビス校
- ・フランス語学実習
【2月2日(日)▶2月25日(火)】
(1名)
トゥーレーヌ学院
- ・ニュージーランド語学実習
【2月7日(金)▶3月9日(月)】(3名)
クライストチャーチ工科大学



Cover of Epistula vol.55

江漢大学からの留学生6名が今年度第1号の表紙を笑顔で迎えてくれました。背景は新築した音楽ホール棟です。



卒業研究発表会を開催しました!

1月30日、31日の2日間にわたって、本学大講義室において情報コミュニケーション学科 卒業研究発表会を開催し、12研究室から50テーマの発表が行われました。

2年間の集大成である卒業研究の概要を、学生自ら創意工夫して発表。社会の仕組みや生活の中で興味・疑問に感じたテーマを掘り下げ、アンケート調査や過去の事例などを用いた研究や、授業の中で携わった企画のアプローチ手法など、様々な論文を発表しました。

情報コミュニケーション学科の卒業研究発表会は毎年人文棟大講義室で行っており、今年も他のゼミの学生や後輩はもちろん、多数の企業関係者や行政関係者の方々に聴講していただきました。



【研究発表一例】

- 商品広告と演出
— フェイクニュースの特徴から見た考察 —
- 日本の労働環境について
働き方改革と大分県の実情
- 15秒TVCMの制作
— 創業50周年の地域企業を紹介する —
- 親子関係が自尊心に与える影響
- インフルエンサー時代の
ネット広告とネットリテラシー
- カフェ業界におけるサーブプレイスの考察
— スターバックスの経営をめぐって —
- 大分県を訪問する外国人観光客の訪問理由と観光障害に関する研究
— 別府市における外国人アンケートの結果から —
- 友だちに心を開くとき— 親密さと自尊心の影響 —
- なぜ悩みを相談しないのか?
— 援助要請タイプによる相談のメリットの感じ方の違い —
- 地域の特産品を活用した地域経済活性化計画策定に関する基礎研究 宇佐クロダマルを事例として
- 大分県内の障がい者スポーツについて
— 卓球バレーに焦点を当てた現状調査 —
- 携帯電話への依存に関する研究
— 親からの利用制限は関係するのか —



地元と連携した活動の数々で

情報コミュニケーション力を研鑽

サービラーニングをはじめ、学内外での活躍が光る情報コミュニケーション学科。本誌で紹介できなかった活動を一部紹介します。

情報
コミュニ
ケーション
学科

地域活動を学生が報告

令和元年度にサービラーニングとして取り組んだ活動を報告する「地域活動フォーラム2019」を1月7日、14日の両日に開催し、学科、学生のほか関係団体や次年度入学予定の高校生などが参加しました。年間30近く実施する諸活動の中から、代表して12の活動について報告しました。サービラーニングは、大学で地域社会の実情や課題を学んだ後、実際に現地での活動に参加することによって学びを更に深めようとするものです。また実際に地域活動に参加することによって、社会貢献のみならず、コミュニケーション力や、主体的行動力、問題解決力を身に付けるというものです。

活動成果について各グループが発表した後、担当教員や関係団体の担当者から講評が行われました。



活動報告

- | | | | |
|--------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------|
| ① 府内学生
エコフェスタ | ② 清正公
鶴崎23夜祭 | ③ ふくしまっ子
応援プロジェクト9 | ④ 大分子ども劇場
「子どもキャンプ」 |
| ⑤ 竹田食育
ツーリズム研修 | ⑥ 大分トリニーク
学生応援プロジェクト | ⑦ 大分活性化
ネットワーク | ⑧ 竹楽・竹ほたる |
| ⑨ 赤い羽根
応援プロジェクト | ⑩ モザイクアート
プロジェクト | ⑪ お菓子の家
プロジェクト | ⑫ めじろん
大分見守り隊 |

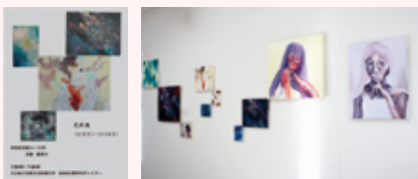


Cover of
Epistula vol.57

芸短フェスタ2019 学長プロジェクト「アートマネジメントプログラム」で「ダンボールこども遊園地」を企画した受講生が表紙を飾りました。

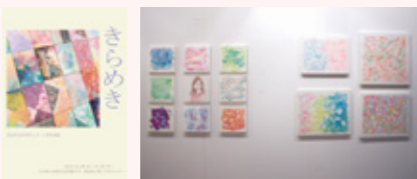
「色彩展」

専攻科造形専攻1年 佐藤 陽那乃



「きらめき」

専攻科造形専攻2年 大神 真理絵



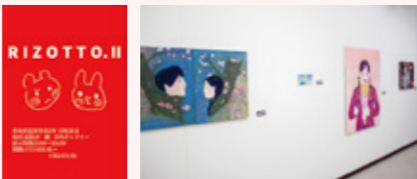
「青」

美術科デザイン専攻1年
垣花 愛美・廣田 百恵・喜友名 亜花李・渡辺 弥咲



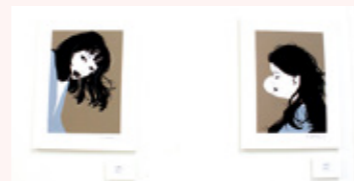
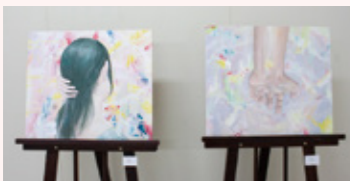
「RIZOTTO. II」

専攻科造形専攻2年 宮原 菜音



「Parfun」

専攻科造形専攻2年 塔元 菜月・永添 楓恋・大塚 ひかり



日々
是精進



(音楽科)

第47回大分県音楽コンクール

【3位】 久野 美法

【奨励賞】 本渡 夢月

(音楽科コース2年)

全日本学生音楽コンクール九州大会

【本選 第3位】 清水 野の花

(音楽科コース2年)

(専攻科)

第13回ベータン音楽コンクール

【第1位】 江口 まゆ

(音楽専攻音楽コース2年)

第8回インテリア設計士の家具デザインコンペ

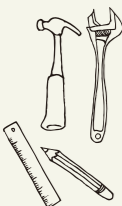
【優秀賞】 佐藤 亜紀

(造形専攻)

【入選】 大石 咲月

(造形専攻)

プロダクトデザインコース1年



President's column

学長コラム

今年度も残り2か月となってまいりました。卒業や修了を迎える皆さんにとっては、残りわずかな学生生活ですね。2年間の集大成である卒業修了制作展や演奏会、卒業研究発表会が開催されましたが、学修活動を集大成することはできたでしょうか。4月からはそれぞれ新生活が始まると思います。心膨らませる部分と同時に、不安なこともあると思いますが、選択した道に歩み出し、そこで本学で培った能力を発揮して活躍することを願っています。

1年生は2年生に進級し、本格的に自分の進路を考えていく時期に入っていきます。就職、進学、留学、各々選択すると思います。芸術系・人文系の学科を併せ持つ芸文短大では、多面的に学修した皆さんの視野は広がっており、進路先の選択肢も多様です。ぜひとも自分が希望する将来に一步でも近づけるような選択をしていただきたいと思っています。

キャンパス整備も大詰めを迎えています。2月に音楽棟と美術棟の改修工事が終了しました。整備された建物に対して、とても待ちわびていた学生もいたようで、新校舎での授業に威風堂々と勉学に励む姿に喜ばしく感じます。3月には事務棟が仮校舎に移り、今年秋頃まで改修工事を行うほか、いくつかの施設改修が進められます。皆さんにはご迷惑をお掛けすることもありますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。来年度入学してこられる新入生にも充実した学生生活となるように、より一層、教育環境を充実して参ります。

学長代行 清水万敬

竹田キャンパス通信

takeda campus

私の好きな言葉に「歩きやすい道は技術が作る。そして、歩きたい道は文化が作る。」といった言葉があります。ここ竹田キャンパスもオープンから10年が経ちました。これからの場所にも文化が根付き、みんなが来たくなる。そんなキャンパスを築いていきたいです。

(前田亮二) 非常勤講師OB



サービスラーニング報告

Service learning report

詳細やほかの活動は、情報コミュニケーション学科HP

<http://oitapc-cis.jp/>

同Facebookをご覧ください。 ※便利なQRコードをご利用ください！

HP



FB



サービスラーニングとは、「大学で学んだことを地域で活かし、活動することで学びの意義を知る」を目的とした本学の特色ある共通プログラムです。単なるボランティアでは終わらない、主体性・協調性・論理性のある「社会力」の育成を目指しています。8月から10月にかけて、下記イベントにサービスラーニングの一環として、学生らが参加しました。

赤い羽根 ボールペン募金 贈呈式を行いました



1月14日、本学学長室において、赤い羽根ボールペン募金贈呈式を行いました。社会福祉法人大分県共同募金会から平原健史常務理事、高柳千香子氏をお招きし、本学清水学長代行吉良特任教授、綾部准教授、活動をけん引した情報コミュニケーション学科の学生達が出席しました。

「赤い羽根ボールペン募金」は、共同募金会が新たな募金手法として取り組んでいる、寄付付き商品の一種で、今年度で7年目となります。ボールペンのデザインを美術科の学生が行い、サービスラーニングを学ぶ学生が結成した「赤い羽根応援プロジェクト」を主体として、積極的に様々なイベントに出かけ募金活動を行い、Facebookに投稿するなど、共同募金活動の啓発と実践を行いました。

清水学長代行は、「昨年10月より情報コミュニケーション学科を中心に、様々な場所で啓発と募金活動を行って参りました。取り組んだ成果を受けて、活用していただきたい」とあいさつし、「赤い羽根応援プロジェクト」メンバー代表が、大分県共同募金会へ目録を贈呈しました。

平原事務局長から、「本日も預かりした募金は、福祉など様々な活動に活用させていただきます。卒業された後は募金する側、利用する側になるでしょうから、ぜひ両方の立場を理解して、地域貢献について考えていただきたいと思います」と感謝と期待の言葉が寄せられました。

ふれあいポリス フェスタ2019に「めじろんおおいだ見守り隊」が参加しました



11月2日に大分県警察の主催で開催された警察展「ふれあいポリスフェスタ2019」において、「サイバー防犯ボランティア」がインターネットの安全利用に関する啓発活動を行いました。描いた赤いペストを着用した学生たちが、指導教員の野田講師、七條講師とともに啓発動画や、自前で作成した啓発ポスターなどを展示するブースを設置し、チラシを渡しながら説明を行いました。

「サイバー防犯ボランティア」とは、大分県警、ハイパーネットワーク社会研究所、そして本学が連携した活動です。増加しつつあるサイバー犯罪を防止する目的とし、本学学生が大分県警察から委嘱を受け、ネット上の見守り・通報啓発ポスター作成などを行っています。

クチナシの実を収穫しました



12月21日に本学市福宗岩下地区を訪問し、クチナシの実の収穫を手伝いました。クチナシは「大根の漬け物、栗きんとん、パエリア」の着色等に使用されていますが、大分市内でも特に少子高齢化が進んでいる同地区では、クチナシの収穫作業が困難になっていることから支援を行っています。

収穫後は田ノ口地区で、農村に人々を呼び込んで活性化を行う活動を展開している若者のコミュニティレストランに移動し、クチナシ大根のカレーをこらそうになりました。また、森林を散策して自然の豊かさを各自が体験すると同時に、農村地域を維持・存続させるための取り組みを詳しく学びました。

GAKUYUKAI 学友会情報

Instagram: @geitandayoo Twitter: @GakuyuGetan

現在11名で活動しています。今年の卒業パーティーも卒業生の皆さんが楽しめる企画をご用意しています！まだまだ至らぬ部分ばかりですが、先輩方の最高の思い出になるよう精一杯頑張ります！皆様のご参加お待ちしております！また、学友会メンバーも随時募集中です！私たちと一緒に芸短大を盛り上げましょう！よろしくお祈りします！

